るワンダーな存在。社会の原動力を生むものが福祉の現場」だと話す。⑵※ R横浜線淵野辺駅か

いる。

2階の一室ではダウン

自己表現はもちろん交流

ツールとしても機能して

ん』こと理事長の磯部伸之さんは、「メンバーは人をワクワクさせてくれ

一から百まで堂」(相模原市中央区)。地域交流も盛んで商店街にはサテラ

運営する社会福祉法人「アトリエ」の、

げて紹介。実際に地域の

の知らない世界を掘り下 車やヴィーガンなど自分

車販売店のスタッフにイ

ンタビューを行うなど、

個性豊かなメンバーが多彩な日中活動に取り組んでいる生活介護事業所

イト事業所も設けている。

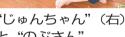
お昼ご飯作り。さらに別 ら百まで堂の敷地が広 広い部屋では地域の卵農 の午前中に訪ねると、 がっている。とある平日 母屋と駐車スペース、庭 ら徒歩17分、 は午後の誕生会に向けて 家の卵を入れる環境に優 活動を行っていた。一番 数名のメンバーが様々な 力の泳ぐ池もある、一か メンバーたちもいる。 には草木が生い茂りメダ い箱作り。キッチンで 2階建ての 閑静な住宅 10 ている冊子です」

ちゃんだ。 「THE極み で脳性まひのある。えい るフリーペーパーを紹介 た年4回ほど発行してい ガラタイムス』と題され の並んだ和室で、『ナイア してくれたのは、 いうコーナーでは毎号 パソコンやプリンター 、編集長



「これは2年前から作っ





"のぶさん" لح

自己肯定感を高め う一緒に考えて られる環境作りを

"じゅんちゃん"

状態でいられるよ がリラックスした

『ナ

和気あいあいと卵の箱作りに取り組むメンバー

イアガラタイムス』 動の他、 ら百まで堂では前述の活 求しない手仕事を行って 便利屋』など、効率を追 藍紫や金継、デ

لح

もっと知りたい! メンバーのこと

"えいちゃん"

る。

19年にはも

から百まで堂にはまだ まだ個性的なメンバーが 揃っている。精神障害のあ "ゆっけ" はアメリカで 活動していた画家。知的障 害のある"ゆりちゃん"は、 不便利屋のオリジナル・ソ ングを歌って教えてくれた。 「自閉症と知的障害を併せ 持つ"とんちゃん"は幼な じみの関係でもあり、僕が 人間関係に苦しんでいたと きにそっと近寄ってきて、 僕の手を取りお腹をなでさ せたのです。不思議と勇気 づけられ、心が温まりまし た」(のぶさん)



いと他人を妬みますが 伝わってきた。 びと過ごしている様子が られ、それぞれが伸び伸 ませているメンバーも見

「人は自分が幸せじゃな

リラックスしてい せん。うちではメ ると敵意を持ちま 人ひとり います」

業所は、のぶさんのお母 伸之さんだ。一から百ま まで堂を運営する社会福 様が関わって1987年 で堂の前身となる地域作 さん』こと理事長の磯部 祉法人アトリエの、「のぶ そう話すのは一から百 定員20名の一か 居ることが社会にとって

大切なのです」

感じられる場所になって タッフにとっても幸せを の中でも貴重なので、ス た『幸せゾーン』は社会 心掛けています。こうし ものづくりのエナジー源 害のある人たちの存在は 利用できる場所です。障 は色々なものを持ってい だから彼らが当たり前に てくれるわけではない。 るけれど、自分から教え にも積極的だ。 になると思います。 「にしもん工房は誰もが 彼ら

の空気感を表現するため、今回はメンスタッフは愛称で呼び合っている。そう考え方のもと、基本的にメンバーや の呼び名は関係性によって変わるとい(注※)なお、一から百まで堂では人 ハーの名を愛称そのままに書いた。

みから感じた。

から百まで堂の取り組

庭で食事をとることも

"かなちには「AIアイド

ル」と呼ばれ、高齢者と

している進行性の難病の ad越しに自宅から参加 出していた。また、iP 使ってアート作品を生み ダンボールなどの廃材を 症の『じゅんちゃん』が



さらに居るだけで場を和

ービス係を務めている。

週1回会話する見守り

のづくりに特 房」を商店街 化したサテラ にしもん工 イト事業所 に開設するな . 地域交流 効であるということを、 を含めて誰に対しても有 う。そしてそれは、 のことを理解するときに の余地を残す姿勢は、そ まで堂の名前の由来につ 重要な姿勢そのものだろ もそも障害のある人たち た物事を決めつけず想像 て好きなように受け取っ てほしいと言う。そうし て、各々が意味を考え のぶさんは、一 一から旨